

水稻新品種「とちぎの星」の安定栽培法の確立

要約

栽植密度 70 株/坪・植付本数 4 本/株移植では、栽植密度 60 株/坪・植付本数 5 本/株移植と比較して早期に茎数(強勢茎)が確保でき、 m^2 当たり籾数も多くなることから、普通植栽培に適していると考えられる。

○ 展示のねらい

普通植「とちぎの星」について、安足地区に適した栽植密度と植付本数の検討を行う。

〈展示内容〉 移植日：6月7日

	栽植密度	植付本数
①供試区	21.2 株/ m^2 (70 株/坪)	4 本/株
②慣行区	18.2 株/ m^2 (60 株/坪)	慣行 (5~5.5 本/株)

○ 主な成果

〈生育及び収量調査結果〉 出穂期：8月17日、成熟期：9月28日

	移植後調査						移植後30日調査			出穂期調査	
	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	栽植密度 (株/ m^2)	植付本数 (本)	使用箱数 (箱)	欠株率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/ m^2)	葉色	葉色	SPAD
①供試区	20.9	3.1	22.2	3.9	20	4.5	51.7	359	4.8	3.5	34.7
②慣行区			18.5	5.1	23	1.5	51.0	346	4.9	3.1	31.6

	成熟期調査					収量構成要素				収量調査	
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/ m^2)	有効歩合 (%)	倒伏程度	穂数 (本/ m^2)	m^2 当たり 籾数(粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	くず米重 (kg/10a)
①供試区	97	20.7	343	95.6	0.6	343	31,744	75.6	24.9	556	6.2
②慣行区	90	20.3	320	92.5	0.8	320	28,603	82.3	24.7	547	3.0

・供試区では欠株が多くなるものの、株内の養分と受光の競合が少ないことから、穂数が確保され、 m^2 当たり籾数が多くなった。

・登熟歩合については、一穂籾数が多い中で、登熟中期の天候不順の影響を受けた供試区で低くなった。

・収量は同程度であり、登熟期の気象が平年並であれば登熟歩合の向上により多収となる可能性を残した。

○ 今後の方向性

低コスト・省力化等を目的に現場で増加している疎植・大苗であっても天候が良い年には倒伏せず同程度の収量になることから、収量等の安定化を目的とした技術である旨の理解を促す必要がある。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：足利市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315